

公 開
資 料 2

第 3 5 0 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和5年8月10日

日 本 学 術 会 議

公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
II 公開審議事項						
1. シンポジウム						
提案 1	公開シンポジウム「研究の自動化とAIが切り拓く科学と社会」の開催について	オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会委員長	3	主催：日本学術会議オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会 日時：令和5年9月1日（金）10:00～17:30 場所：一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）（ハイブリッド開催）	-	内規別表第2
2. その他						
件名					資料(頁)	
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、令和5年8月29日（火）13:30～開催。				-	

公開シンポジウム

「研究の自動化と AI が切り拓く科学と社会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会
2. 共 催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（予定）
3. 後 援：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構（予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）9月1日（金）10:00 ～ 17:30
5. 場 所：一橋大学一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内（予定））（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無

8. 開催趣旨：

オープンサイエンスとデータ駆動型科学は、より開かれた知識とデータを活用することで、これまでの科学を効率化するだけでなく、科学の姿に新しい局面をもたらし、科学と社会を変容させる駆動力となりつつある。その中でも研究自動化 (ARW: Automated Research Workflow) では、人工知能を始めとする先端的デジタル技術やロボット技術等を集約することにより科学的知見を獲得するプロセスの圧倒的加速化に関して手応えが得られつつある。この潮流は、まず、実験の効率化等によって知識生産の労働集約作業から研究者が解放される。さらに、作業仮説を多量のデータから立てることや、人の認知を超えた多量の範囲の探索などを通じてセレンディピティを含む気づきを得る事自体を効率化し、知識創造の労働集約作業から研究者が解放される可能性も持つ。

本シンポジウムはオープンサイエンスとデータ駆動型科学の中でも特にそのポテンシャルを最大限に活かしている ARW に焦点を当て、世界と日本の状況、アカデミアと企業の取組を紹介し、科学の新しいパラダイム構築に向けた対話の場を設ける。

9. 次 第：

進行：

林 和弘（日本学術会議連携会員（特任）、オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会副委員長、文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長）

[オープニング]

10:00 開会と趣旨説明（40分）

喜連川 優（日本学術会議連携会員、オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会委員長、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長、東京大学特別教授）

10:40 文部科学省からの挨拶（20分）

[セッション1] ARWを知る

11:00 基調講演1（40分）：「実験室のシステム化:その世界的動向と展望」

一杉 太郎（日本学術会議連携会員（特任）、東京大学大学院理学系研究科化学専攻教授）

11:40 基調講演2（40分）：「AI・ロボティックバイオロジーが切り拓く世界（仮）」

夏目 徹（国立研究開発法人産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門首席研究員）

(昼休憩 70分)

13:30 基調講演3（40分）：「AI for Science: AI サロゲート、基盤モデル for Science から、AGI 科学者による科学イノベーションの大幅な躍進」

松岡 聡（東京工業大学情報理工学院特定教授）

[セッション2] ARWを支える

14:10 青柳 岳司（旭化成株式会社）（企業の視点より1）（30分）

14:40 秋田 裕之（三菱電機株式会社）（企業の視点より2）（30分）

15:10 生貝 直人（一橋大学大学院法学研究科教授）（知財、法制度の視点から）（30分）

15:40 原田 達也（東京大学先端科学技術研究センター教授）（ロボットとLLM(大規模言語モデル)の融合の視点から）（30分）

(休憩 20分)

[セッション3] ARWの可能性と課題

16:30 パネルディスカッション (60分)

モデレータ:

喜連川 優 (日本学術会議連携会員、オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会委員長、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長、東京大学特別教授)

パネリスト:

一杉 太郎 (日本学術会議連携会員 (特任)、東京大学大学院理学系研究科化学専攻教授)

夏目 徹 (国立研究開発法人産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門首席研究員)

三枝 信子 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長)

中野 美由紀 (日本学術会議連携会員、津田塾大学教授、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構非常勤理事)

菅野 智子 (東京大学生産技術研究所教授)

林 和弘 (日本学術会議連携会員 (特任)、オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会副委員長、文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長)

[クロージング]

17:30 閉会の挨拶

菱田 公一 (日本学術会議副会長、第三部会員、明治大学研究・知財戦略機構特任教授)

10. 関係部の承認の有無: 課題別委員会のため無

11. 関係する委員会等連絡会議の有無: 無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)